

平成30年9月10日

豊洲市場開設認可に際して（幹事長談話）

東京都議会自由民主党
幹事長 吉原 修

本日、9月10日、豊洲市場の開設が国により認可されました。

小池知事が突如移転延期を発表してから今日までの2年間、貴重な時間と膨大な経費が浪費され、関係事業者の皆様や地元区の方々が都政に寄せていた信頼は大きく傷つき、都の市場運営に対する都民の不安と風評被害を引き起こし拡散させました。

また、2020年東京大会の交通アクセスの要である環状2号線の建設は不可能になり、仮設道路で急場をしのぐ、綱渡り状態を強いられることになりました。

さらに、「豊洲は活かす築地は残す」というその場しのぎの無責任な発言により市場関係者の混乱を招き、地元区との約束であった先客万来施設の整備も大幅な変更を余儀なくされました。そして、38億円を投じて追加対策工事を行いながら、知事自身は一度も現場を確認することはありませんでした。

都の各局事業は互いに密接に連携することで、総体としての都の行政運営を形成しています。市場の移転延期は市場だけの問題ではありません。その実態を無視した無責任な方針の変更は、多くの都民や関係者を傷つけ、都政への信頼を失い、職員は知事の独断専行の後始末に追われる結末になりました。

小池知事の2年間の迷走は、こうした大きな傷跡を残しました。知事は、この事実をしっかりと直視し、猛省すべきです。そして、都民の声を聴き、都議会と真摯に議論し、その場限りのパフォーマンスではなく、地に足の着いた、誠実な都政運営に取り組んでいくべきです。

都政を未曾有の混乱に陥れた豊洲市場移転問題も、一つの区切りを迎えましたが、本当の正念場はこれからです。10月11日の移転を円滑に実施するのはもとより、市場内部の各施設の使い勝手、市場周辺の交通渋滞、風評被害の払拭など、豊洲市場が都民に愛される市場にするためには、多くの課題解決が必要です。

都議会自民党は、市場で働く方々のご要望と、市場に寄せる都民の皆様のご意見を真摯に受け止め、明るく魅力あふれる、世界水準の豊洲市場の実現に全力で取り組んでまいります。

以上